

学校教育への貢献が評価 県教育・文化関係表彰受賞報告



県教育・文化関係表彰受賞報告は2月4日、市役所で行われ、受賞した向陽中学校の加藤寛基副主査が福地裕之教育長に受賞を報告しました。加藤副主査は、学校事務職員の見点から、校長や教員と連携を図りつつ課題解決に向けた取り組みを推進し、学校環境改善に尽力したことなどが評価され、特別功績者を受賞しました。報告を受けた福地教育長は、その功績をたたえました。

市のスポーツ振興と発展に尽力 スポーツ推進委員30年勤続表彰受賞報告

スポーツ推進委員30年勤続表彰受賞報告は2月9日、市役所で行われ、受賞した石田義広さんが福地教育長に受賞を報告しました。

石田さんは、平成5年からスポーツ推進委員の前身である体育指導委員として活動し、長年にわたり市のスポーツ振興と発展に貢献されたことが評価され受賞しました。報告を受けた福地教育長はその功績をたたえました。



子どもの意欲を引き出す指導方法を研究 市教育研究会



令和7年度相馬市教職員研究作品展表彰式は2月12日、市民会館で開催されました。作品は、教育研究論文、教育実践記録などの4つの分類があり、個人または団体が分類とテーマを決めて出品。福地教育長は「受賞おめでとうございます。教職員の方々の教えたい、学ばせたいという意欲が、子どもたちの成長につながります。これからも意欲を持って研究に取り組み、代表者に表彰状を手渡しました。」

迅速な初期消火および応援救護協力の功績をたたえる 感謝状贈呈式

初期消火および応援救護協力に関する感謝状贈呈式は2月24日、市役所で開催されました。同感謝状は、令和7年11月17日に黒木字上泉地内で建物火災が発生した際、消火器による初期消火や負傷者の救護を行った功績をたたえるもので、阿部勝弘市長は感謝の言葉を述べ、感謝状と記念品を手渡しました。



市からベストと帽子を贈呈 刈敷田ちよこつとてつだう会



「刈敷田ちよこつとてつだう会」ベストおよび帽子贈呈式は3月9日、市役所で行われ、同会の鈴木一弘会長ら5人が訪れました。同会は、高齢者などの日常生活支援を目的に発足し、中村中部8区の会員が地域の高齢者宅のごみ出しなどの日常生活でのちよこつとした困りごとの手伝いを行います。式で、阿部市長がベストを手渡し、活動への期待を述べました。

手作りの防災マップで受賞 放課後児童クラブ



第22回2025年度小学生のぼうさい探検隊マップコンクール表彰式は2月に市内各所で実施され、受賞した放課後児童クラブの児童らが出席しました。

式では、気象庁長官賞などを受賞した市内の放課後児童クラブの児童らが賞状と記念品を受け取りました。子どもたちは、協力して作り上げたマップが受賞したことに喜びの表情を浮かべていました。

●受賞内容は次のとおり
【気象庁長官賞】

中村第二小学校放課後児童クラブかもめクラブ・いるかクラブ合同「かもめクラブ探検隊」

【審査員特別賞】

▽川原町児童センターみつばち防災探検隊「みつばちすみれぼうさい探検隊」

▽西部子ども公民館放課後児童クラブこすもすクラブ
「こすもす防災探検隊」



元気に「火の用心」 チャキチャキ防火 パレード



チャキチャキ防火パレードは2月27日、みどり幼稚園で行われ、同園の年中児や消防関係機関ら約50人が火災予防を呼びかけました。

同パレードは、「春季全国火災予防運動」の一環として開催。

当日は、園児らがプラカードや神輿（みこし）、拍子木などを持って隊列を組み、園内で「戸締り用心、火の用心」などと元気な声で火災予防を呼びかけながらパレードを行いました。

東北大会での活躍を願う

スポーツ大会出場報告

スポーツ大会出場報告は2月5日、市役所で行われ、東北大会に出場する松本倫佳選手（八幡小6年）が訪れました。

松本選手は、1月に行われた、県大会で優秀な成績を収め、2月7日から宮城県仙台市で開催の東北大会に出場。

松本選手は「優勝を目指して頑張ります」と大会への決意を述べました。

※大会の成績は、準優勝でした。



国際理解を深めるわくわくワールドフェスタ



2026わくわくワールドフェスタは2月22日、総合福祉センターで開かれ、多くの市民が外国人などと交流しました。

会場には、世界各国のブースが立ち並び、国を紹介したパネル展示や各国の料理の販売などが行われました。

閉会式では、世界の平和を祈り会場の人たちと一緒に合唱を行うなど、訪れた人たちは、世界の文化に触れ、国際理解を深めていました。

昔遊びを楽しもう

日立木ポプラっ子教室



放課後子ども教室「日立木ポプラっ子教室」の昔遊び体験は2月10日、日立木小学校で開催され、7人の児童が参加しました。

同イベントは、児童らに昔遊びを楽しんでもらうことを目的に開催。

当日は、羽子板を使った羽根付きなどが行われました。児童らは、普段体験できない昔遊びに触れ、新鮮な気持ちで遊びを楽しんでいました。

ひなまつりを楽しもう

さくら子ども教室

放課後子ども教室「さくら子ども教室」の「ひなまつり」は2月18日、桜丘小学校で開催され、約50人の児童が参加しました。

当日は、保護者参観も兼ねて行われ、紙皿を使ったひなかさ作りのほか、童謡「うれしひなまつり」の合唱などが行われました。

児童らは、保護者らと力を合わせてひなかさを完成させるなど、一足早いひなまつりを楽しんでいました。



▽くろ松クラブ



青年会議所のOBで構成されたくろ松クラブによる寄付は2月12日、市役所で行われました。

訪れたのは齋藤真一直前会長、山中宣明会長、松本好彦副会長、飯塚知之理事の4人。

寄付金を受け取った阿部市長は「いただいた寄付金は、市民のために大切に使用させていただきます」と感謝の言葉を述べました。

寄付ありがとう

▽ニューパワー相馬合同会社

ニューパワー相馬合同会社による寄付は2月13日、市役所で行われました。

合同会社を代表し、株式会社フジタの増山祐一東日本開発事業部上席執行役員事業部長が太陽光発電事業の収益の一部を寄付金として阿部市長に手渡しました。同合同会社による寄付は、平成26年から毎年行われ、12度目です。



▽あぶくま信用金庫



あぶくま信用金庫による寄付は2月18日、市役所で行われました。

同寄付金は、同信用金庫の社会貢献活動として地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）を活用して、市が運行する「おでかけミニバス」事業に寄付するもの。阿部市長は「日頃よりご支援をいただき、ありがとうございます」と感謝の言葉を述べました。

百歳おめでとう

▽遠藤タケヨさん



百歳を迎えた遠藤タケヨさんへの賀寿贈呈は2月18日、自宅で行われ、遠藤さんに県知事および市長賀寿状などが手渡され、同席した家族などが、遠藤さんの長寿を祝いました。

阿部市長は「百歳おめでとうございます。これからもどうか元氣にお過ごしください」と述べました。遠藤さんの長寿の秘訣は、お孫さん家族と外食するなど、何でもよく食べることです。

▽新保春子さん

3月10日に百歳を迎えた新保春子さんへの賀寿贈呈は3月11日、長生院（南相馬市）で行われ、新保さんに県知事および市長賀寿状などが手渡され、同席した家族などが、新保さんの長寿を祝いました。

阿部市長は「これからも好きなことに一生懸命取り組んでいる姿を私たちに見せていただきたいと思ひます」と述べました。

新保さんの長寿の秘訣は、好き嫌いなく何でも食べることです。



叙位・叙勲伝達式 安良紀男さん



叙位・叙勲伝達式は3月12日、市役所で行われ、瑞宝双光章の荣誉に輝いた安良紀男さんの妻の美佐子さんに福地教育長から位記および勲記、勲章が手渡されました。

安良さんは36年間にわたり学校教育に尽力し、県内の小・中学校校長を歴任。

退職後は、市教育委員会教育長を務めるなど、市の教育環境の充実に貢献されました。伝達を受けて美佐子さんは「このような名誉ある章をいただき、胸がいっぱいで言葉になりません。夫も喜んでいると思います」と謝辞を述べました。

アルパとパラグアイの音楽を世界に広める 志賀昭裕さん

イベロアメリカ大学（パラグアイ）からの感謝状贈呈報告は3月2日、市役所で行われ、アルパ奏者の志賀昭裕さんが訪れました。

志賀さんは本市出身で、アジアを中心に世界的なアルパ奏者として活躍しています。

同感謝状は、アルパとパラグアイ音楽を日本や世界に広めた功績をたたえて贈られたもので、志賀さんは「大変光栄です。これからもアルパと相馬の素晴らしさを世界に広



安全管理を徹底したおいしいパックごはん製造に期待 県知事との意見交換

内堀雅雄知事と阿部市長の現地視察と意見交換は3月13日、有限会社ドリームズファーム相馬工場で行われました。

梱包室の視察後、パックごはんの試食が行われ、内堀知事は「とてもおいしく、炊き立て感がありました。迅速かつ安全管理を徹底し製造されているパックごはんを、ぜひ多くの方に食べていただきたい」と述べ、その後、阿部市長と意見を交わしました。



めていきたい」と述べました。

震災から15年市東日本大震災追悼式



東日本大震災の発生から15年を迎えた3月11日、市民会館で、犠牲者を悼む相馬市東日本大震災追悼式が開催されました。

市が主催し、遺族ら249人が参列し、震災の犠牲者を悼み黙とうをささげました。

式で、阿部市長は「あの日私たちが得た教訓や困難を乗り越えた経験は、決して風化させてはなりません。震災の記憶を受け継ぎ、次の世代が心から誇れる相馬の実現に向けて、市民の皆さまと相馬の新しい歴史を築いていくことを、御霊の前に固く誓い申し上げます」と式辞を述べ、杉本智美市議会議長が追悼の辞を述べました。

遺族を代表し木幡陽子さんが震災からの15年間で回想し

「津波がのみ込んでいったのは父だけではなく、私を形作るもの全てでした。その後は、喪失感を抱えながら、目の前のことに必死になって生きていきました。壮絶な経験を後世に伝え、大いなる力を持つ自然と共存し、より良い未来を目指し、これからも私たちがこの世界に生き続けます。

『哀(かな)しみを乗り越えて、平和な毎日を大切に、希望を持って生きる』、それがあの日失われたたくさんの命と、彼らの願いに応えることになるのだらうと思います」と犠牲になつた御霊に語りかけました。



復興への誓いを新たに

磯部小学校防災の集いは3



磯部小防災の集い

月11日、同小学校慰霊の像前で行われ、児童14人を含めた関係者約30人が参加しました。吉田広同小学校校長の式辞に続いて献花が行われ、伊藤大賀さんが「多くの尊い命が失われたこの出来事は、決して忘れてはならない歴史です。これからも人と人のつながりや思いやりの心を大切にしながら防災を学び続け、震災の記憶を風化させることなく未来へと語り継いでいきます」と復興への誓いを述べました。

震災の教訓を忘れない 磯部中慰霊式

磯部中学校慰霊式は3月11日、同中学校で行われ、同校の生徒や同窓会、PTA代表など約20人が参加しました。

同中学校慰霊碑前で黙とうをささげ、穂積隆志同中学校校長の式辞に続いて、献花が行われました。

石橋瑠美華生徒会長は「震災を経験した方々から学んだ教訓などを忘れず、災害にあつたときに生かしたいです。そして、私たちのふるさと磯部を大切にしていきたいです」と



復興への誓いを述べました。

鎮魂を願う相馬市
手をつなぐ親の会

東日本大震災復興と鎮魂の集いは3月11日、伝承鎮魂祈念館前の海岸で行われ、地元住民ら約100人が木の葉の舟を流し、祈りをささげました。木の葉の舟は、泰山木(たいざんぼく)の葉に亡くなった人へのメッセージや、復興への思い、将来の夢などを記したもので、兵庫県の「森はな顕彰会」や県内外の小学校などから約10,000枚が集まりました。

住民らは14時46分に黙とうした後、木の葉の舟を海に流しました。